困窮者らに支援の手

コメ・大根など45世帯に配布

上伊那

上伊那医療生協のＳＯＳネットワークが26日、上伊那郡箕輪町の同ネットワーク事務所前でブラジル人や日本人ら45世帯に今年最後の食料配布をした＝写真。サンタクロースの衣装を着たボランティア約20人が参加。コメのほか箕輪町や長野市などの農家が作った大根やリンゴなどを「メリークリスマス」と声を掛けて手渡した。

配布を受けに来た広山茂さん(55)＝伊那市＝は昨年７月、勤務先の会社が倒産。現在は岡谷公共職業安定所（岡谷市）でパソコン研修を受けている。「職安に通うガソリン代や駐車場代も大変。食料配布はとても助かる」と話した。ボランティアの同町木下の男性(66)は「ブラジル人と話すためポルトガル語を勉強した。帰国するブラジルの友人がいて切なかった」と振り返った。

同ネットワークは今年１年間で44回にわたってコメ約20㌧、野菜と果物計約50㌧を配った。同ネットワークの食料配布には現在613世帯が登録。うち約８割はブラジル人世帯だが、日本人の登録も増えており、現在は38世帯。水野耕介事務局長(52)は「厳しい状況は支援を始めた時から変わっておらず、がくぜんとする。来年も支援を続ける」としている。